

地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 商学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式60問(語句選択60問) 記述式20問 論述1問 計81問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数3題は変化なし。マーク式は1問減少し記述式が2問増加した。年代整序問題・正誤判定問題は昨年度と同様に出题されなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年度はテーマ史1題、近世史1題、近現代史1題の構成であった。今年度も昨年度と同様であった。時代ごとの大問の構成が年度ごとに変化するのが商学部の特徴であるが、今年度は昨年度と大問の構成に変化が見られなかった。

その他トピック

冬期講習「早慶大日本史」第3講**3**で近代のメディアに関して新聞の歴史を扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 記述	原始～中世の日中関係史と古代・中世の徳政	平易な問題ばかりであった。取りこぼしをしないようにしたい。	易
II	語句選択 記述 論述	江戸時代の鎖国体制と開国	問1(43)(44)「松倉」、(45)(46)「寺沢」、(63)(64)「伊勢」は迷ったかもしれない。問2(b)の「回答兼刷還使」、問3(2)の「北槎聞略」は正確な漢字が書けただろうか。	やや易
III	語句選択 記述	近現代のメディアの発達とその時代	問1(113)(114)「情報局」は選択肢から絞ってほしいが、やや難。問2の(b)「讒謗律」、(c)「臥薪嘗胆」は正確な漢字が書けただろうか。問3(2)の(あ)は、設問の表現から「消費革命」を導きだすのにやや戸惑ったかもしれない。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書範囲を超えた設問が見られることもあるが、それには固執せず、教科書の範囲内で解ける問題を取りこぼさないように学習することが肝要である。特に、商学部は記述式問題が多いので、歴史用語を正しく書く練習を欠かさないようにしたい。政治・社会経済・外交・文化をまんべんなく学習したうえで、頻出テーマである社会経済史・文化史については、少し詳しく確認しておくとうい。